

牧師、バイカー、鮭職人として。。。シェア from LA 第17話「アメリカで教会を法人化する」 Part 1

当教会は家の教会(ハウス・チャーチ)なので、実のところ発足当初は「宗教法人」を取得するなどと夢にも思わなかった。別にこのままでもやって行けるからだ。しかしシゲ子さんの受洗の時、ドーソンが(6話と9話参照)「教会の非課税控除について何か考えてるのか？」とストレートに尋ねられた時、ドキッとした。「ウワッ、やられた。」と思った。厄介で あまりやりたくないことを神さまは信仰者に求められるからだ。こんな小さな教会なれど、神は私たちを通して何か事を起こそうとされてるのかも知れないと考え、祈りつつ法人化へ向けて動き出した。

だが、周りにいる先輩牧師らは一様に「やり方を知らん」と言う。基本的にただ前任者から引き継ぐケースが多いからだ。それに、有給だと牧師とは言え税法上ではただの“サラリーマン”なので、私のように無給で独立したボランティアとなると勝手がまるで違う。また、米人や韓国人の大きな教会で“間借り”してるだけの日本人教会も少なくないので、自分たちだけで一から法人アカウントを開設する必要など全くないのだ。さらに、一から開設した場合には弁護士がからみ約5000ドルも費用がかかったことも聞いた。

悶々と祈る日々が続く中、地元の ある日系紙で、60歳代のボランティア女性が老人ホームのために不要となった音響機器などの寄付を募っている広告が目が留まりピンと来た。ボランティアで非営利活動をしている人ならば優秀なCPA(会計士)などを知ってるかもしれない。ちょうど家に不要となったCDプレーヤーがあったので、寄付も兼ねてさっそく彼女に会って尋ねたところ、「実は私の主人はCPA なんです。会社設立や法人化の専門家です。」と言うではないか！ 何と的確な主の導き！

「またわたしは、あなたがたがわたしの名によって求めることは何でも、それをしましょう。」

父が子によって栄光をお受けになるためです。」

ヨハネの福音書 15章7節

というイエスの言葉を思い出した。祈りが聞かれ、目の前にパーッと光が差し込んだ。彼女の名は武曽百合子さん。彼女はこの日、北ロスアンゼルスから往復200キロの道を自ら運転し、お年寄りのために使うCDプレーヤーを引き取りに来てくださった。“似た者同士”という言葉があるが、神さまはご自分のミッションのために、私と似たような人を送ってくださるのだなと感心した。そして、この後さらに驚くべき神の栄光を目の当たりにすることになる。

11-19-2019

